

(表紙) 己卯正月 元服祝義留帳

一金式百疋

花屋

鴨 一羽

一 腰さし 壺

船元

はまくり(者) 一籠

一 ぶんこ(婦) 壺

郡屋

半切 百枚

はまくり 壺籠

に(糸)し

一 かつつけ(希)鯛

俵屋

一 あかう(阿可) 壺

亀(龜)山右衛門

一 ほら 壺本

島(寫)田屋

小鯛 壺枚

ひかし(可)

一 中鯛 壺枚

魚市

さゞる 八つ

一 大鯛 壺枚

藤蔵

さゞる 十

庄八

藤蔵	友平	時平
庄八	幸八	幸介
十介	百蔵	茂吉
林平	十吉	梅吉

筆者は三郎右衛門（10代、号は端木）。分家の花屋から迎えた養子（のちの11代三郎右衛門）の元服にあたって記されたものと考えられる。「己卯」は文政2年（1819）。